

市制施行 60 周年 高石市防災シンポジウム
報告書

高石市 総合政策部 危機管理課

市制施行 60 周年 高石市防災シンポジウム
～次世代へ安全・安心を引き継ぐための自助・共助の推進～

【日時】 令和 8 年 5 月 22 日（金） 開 始 17 時 00 分
終 了 18 時 10 分

【場所】 たかいし市民文化会館「アプラホール」

【プログラム】 1. 開会挨拶 [高石市長]
2. 来賓紹介・挨拶 [高石市議会議長]
3. 基調講演 17時10分～17時50分

総務省 総務事務次官（元消防庁長官） ^{はら} ^{くにあき} 原 邦彰 氏

1964 年生まれ、神奈川県出身。東京大学法学部卒業。88 年自治省（現総務省）入省。和歌山県総務部長、和歌山県副知事、総務省自治行政局市町村課長、自治財政局財務調査課長、調整課長、内閣官房内閣総務官室内閣審議官、内閣官房内閣総務官、総務省官房長、自治財政局長、消防庁長官、総務審議官を歴任。25 年 7 月総務省総務事務次官。

4. パネルディスカッション 17時50分～18時10分

コーディネーター：NPO 法人プラス・アーツ理事長 ^{ながた} ^{ひろかず} 永田 宏和 氏

パネリスト：総務省 総務事務次官（元消防庁長官）原 邦彰 氏
高石市長 畑中 政昭

5. 閉会

【聴衆】 324 人

（近隣市町、消防機関、自主防災組織、高石防災協会、民生委員、校区福祉委員、婦人団体協議会体、防災会議委員、教育保育機関、防災関係機関ほか）

【市長挨拶 要約】

市制施行 60 周年という節目に防災シンポジウムを開催できたことへの感謝を述べ、来場した市民、防災関係者、議員、近隣自治体関係者へ謝意を表しました。

挨拶では、かつて高石地域が室戸台風による甚大な被害を受け、学校倒壊によって若い命が失われた歴史や、復興のために当時の自治体財政が大きな負担を抱えながらも再建に取り組んだ経緯を紹介しました。そして、先人たちの努力によって現在の高石市が築かれていることに触れ、防災への思いを次世代へつないでいく重要性を強調しました。

また、市として現在進めている防災対策として、

- 駅へのデジタルサイネージ設置による災害情報発信
- 地震・津波時に自動解錠される避難所収納ボックスの整備
- 消防署建て替えによる防災力強化

などを紹介し、「防災は行政だけでは成り立たず、市民や関係機関との連携が不可欠」と訴えました。

さらに、能登半島地震対応の最前線に立った総務省事務次官・原邦彰氏を招き、災害対応の実践的な知識を学びながら、市民と行政が同じ方向を向いて“災害に強いまちづくり”を進めていきたいと締めくくりました。

【議長挨拶 要約】

各行政機関、各自主防災組織等、地域住民へ、日頃からの災害時における自助・共助の推進に対し、謝意を述べられました。重ねて、堺市消防局をはじめ、消防関係機関へ、高石消防署高師浜出張所の改築や、高石市消防団の訓練等への連携、支援に対し、謝意を示されました。

近年自然災害の頻発化、被害が深刻化する中で、地域の防災活動を支える地域の皆さまの存在について心強さを感じる一方、各コミュニティにおける、活動の担い手の固定化や高齢化、人手不足が進んでいることに触れられました。

本シンポジウムを契機に、更なる自助・共助の推進、地域防災力の向上が図られ、将来にわたり、高石市が安全安心なまちとして受け継がれていくことに期待を示されました。

最後に、高石市議会として、議会での審議を通じ、災害に強いまちづくりのため、更なる努力をしていくと語りました。

【総務省事務次官 原 邦彰 氏 講演要約】

「消防防災力の充実強化について」



消防庁長官時代に対応した令和6年能登半島地震をはじめ、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの経験をもとに、日本の危機管理体制と防災対策について講演されました。

講演では、現在の国の危機管理体制は阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、大きく強化されていることが説明されました。大規模災害時には、官邸危機管理センターを中心に、全国から情報を集約し、消防・警察・自衛隊・海上保安庁などが連携して救助活動を行う体制が整備されているとのことでした。

特に令和6年能登半島地震では、発災直後から全国の緊急消防援助隊に出動指示を出し、大規模な救助活動を展開したことが紹介されました。道路寸断や通信障害、津波警報など厳しい状況の中でも、現地消防隊や消防団が命がけで消火・救助活動、道路啓開にあたったことに深い敬意を示されました。

また、大規模災害時には国による支援が行われるものの、「救助は必ず行く。しかし、すぐには来られない。」と述べられ、災害発生直後は地域住民自身による「自助」と、地域で支え合う「共助」が極めて重要であると強調されました。

具体的な自助・共助としての備えとして、

- 家具固定
- 食料・水・簡易トイレの備蓄（最低3日、可能なら1週間）
- 住宅の耐震化
- 感震ブレーカーの設置
- ハザードマップの確認
- 地域での助け合い体制づくり

などの必要性を挙げられました。さらに消防団や自主防災組織の重要性にも触れ、地域コミュニティによる防災力向上の必要性を訴えられました。最後に、「訓練でできないことは、本番でもできない。」として、防災訓練への積極的な参加と、日頃からの備えの重要性を呼びかけられました。

消防防災力の充実強化について

令和6年5月22日
総務事務次官 原 邦彰

県内消防種別別

令和6年5月22日現在

種別	消防団員数	消防団員数(前年比)	消防団員数(前年比)
消防団員	26,368人	▲1.0%	26,636人
消防団員(消防団員)	26,368人	▲1.0%	26,636人
消防団員(消防団員)	26,368人	▲1.0%	26,636人

令和6年能登半島地震における消防団の主な活動状況

被災地域の消防団は、自らも被災しながら、被災者の命を守るための活動に力を尽くすとともに、被災者からの救済の場、被災者からの生活支援、行方不明者の発見、避難所運営の支援などの活動に貢献した。(石川県の消防団は7月6日現在で299人参加)

- 被災者からの救済活動
 - 被災者からの救済活動
 - 被災者からの救済活動
 - 被災者からの救済活動
- 被災者からの生活支援
 - 被災者からの生活支援
 - 被災者からの生活支援
 - 被災者からの生活支援
- 被災者からの発見
 - 被災者からの発見
 - 被災者からの発見
 - 被災者からの発見
- 被災者からの避難所運営
 - 被災者からの避難所運営
 - 被災者からの避難所運営
 - 被災者からの避難所運営

消防団の状況

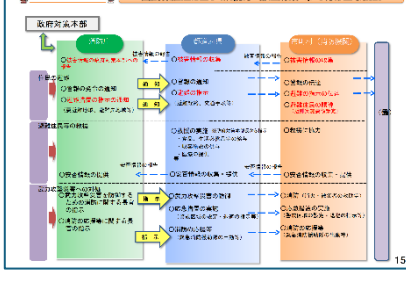
令和6年5月22日現在

種別	消防団員数	消防団員数(前年比)	消防団員数(前年比)
消防団員	26,368人	▲1.0%	26,636人
消防団員(消防団員)	26,368人	▲1.0%	26,636人
消防団員(消防団員)	26,368人	▲1.0%	26,636人

消防団の状況

令和6年5月22日現在

- 消防団員数
- 消防団員数(前年比)
- 消防団員数(前年比)



消防の組織

消防の組織

- 消防の組織
- 消防の組織
- 消防の組織

令和6年能登半島地震における消防団の対応

令和6年能登半島地震における消防団の対応

- 消防団の対応
- 消防団の対応
- 消防団の対応

総務省消防庁における今後の大規模災害対策

総務省消防庁における今後の大規模災害対策

- 消防庁の対応
- 消防庁の対応
- 消防庁の対応

消防団の状況

消防団の状況

- 消防団の状況
- 消防団の状況
- 消防団の状況

消防団の状況

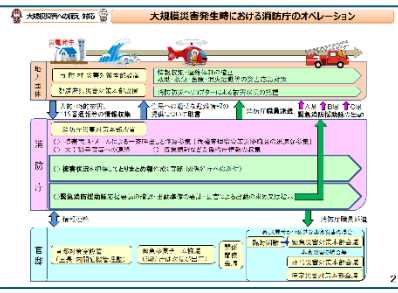
消防団の状況

- 消防団の状況
- 消防団の状況
- 消防団の状況

消防団の状況

消防団の状況

- 消防団の状況
- 消防団の状況
- 消防団の状況



消防団の状況

消防団の状況

- 消防団の状況
- 消防団の状況
- 消防団の状況

消防団の状況

消防団の状況

- 消防団の状況
- 消防団の状況
- 消防団の状況

消防団の状況

消防団の状況

- 消防団の状況
- 消防団の状況
- 消防団の状況

消防団の状況

消防団の状況

- 消防団の状況
- 消防団の状況
- 消防団の状況

消防団の状況

消防団の状況

- 消防団の状況
- 消防団の状況
- 消防団の状況

【パネルディスカッション 要約】



畑中高石市長、原総務省総務事務次官、永田 NPO 法人プラス・アーツ理事長によるパネルディスカッションが行われ、「次世代へ安全・安心を引き継ぐための自助・共助の推進」をテーマに議論が交わされました。

冒頭、畑中市長は、「今日、自分ができることを持ち帰り、各家庭や地域で話し合うことが大切」と述べ、市民一人ひとりの防災意識の積み重ねが地域防災力向上につながると呼びかけました。

続いて、永田理事長から、防災教育プログラム「イザ！カエルキャラバン！」について紹介がありました。阪神・淡路大震災を契機に始まったこの取り組みは、楽しみながら学べる防災訓練として全国 39 都道府県で展開されており、高石市でも総合防災訓練と連携して実施されています。

特に高石市では、

- 中学生・高校生・大学生の参加が増えていること
- 若い世代が防災活動へ主体的に関わっていること
- 小学校や高校においても、防災教育・探究学習が広がっていること

などが紹介され、「全国的にも先進的な事例」と評価されました。

原次官からは、全国の先進事例として、

- 愛知県豊橋市明海地区における企業と地域が連携した自主防災活動
- 愛媛県松山市においては、防災士資格取得者が多く、市民の防災意識が高いこと

が紹介され、防災は継続的な訓練と地域ぐるみの取り組みが重要であると説明されました。また、「市民はどう頑張ればよいか」というテーマでは、畑中市長が、

- 防災士や消防団への参加
- 日常生活の中で無理なく防災を意識する“ながら防災”

の重要性を強調しました。具体例として、

- 餅つき大会での炊き出し訓練

- コミュニティカフェでの防災カードゲーム
- 感震ブレイカーの設置

など、日常の地域活動に防災を取り入れる工夫が紹介されました。

さらに、高石市消防団については、

- 団員の若返りが進んでいること
- AED 訓練など地域密着型活動を積極的に行っていること
- 総務省から救助資機材や防災車両の支援を受けたこと

なども報告されました。原次官は、市民がまず取り組むべきこととして、

- ハザードマップの確認
- 食料・水・トイレの備蓄
- 家具固定
- 住宅の耐震化
- 感震ブレイカーの設置

を挙げ、「まず自分自身でできる備えが大切」と強調しました。また、防災の基本として、

- 最悪の事態を想定する
- 事前にマニュアル化する
- 訓練を行う

という三つの重要性を示し、「訓練でできないことは、本番でもできない」と述べ、防災訓練への積極的な参加を呼びかけました。

最後に畑中市長は、

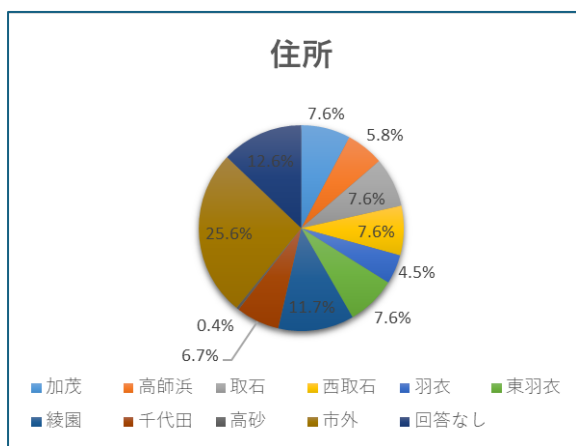
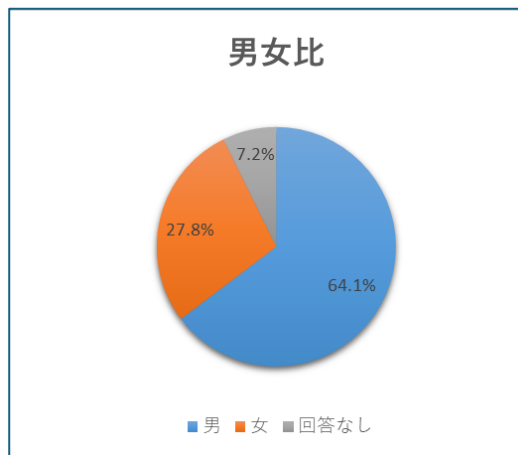
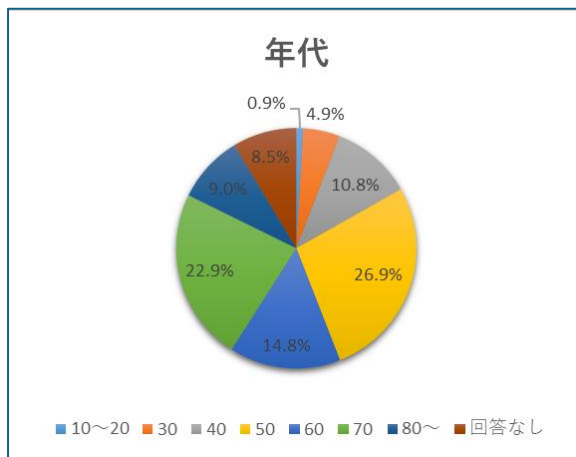
- 市民と行政が同じ学びを共有すること
- “何かあったら助け合えるまち”をつくること
- 防災を通じた地域コミュニティづくりを進めること

の決意を語り、引き続き市民とともに高石市の安心・安全なまちづくりを進めていきたいと締めくくりました。

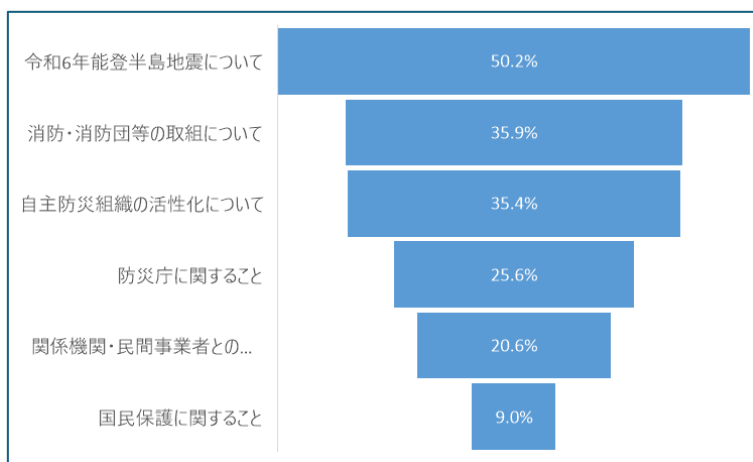
防災シンポジウム アンケート結果

アンケート回収数 223 （回収率 68.8%）

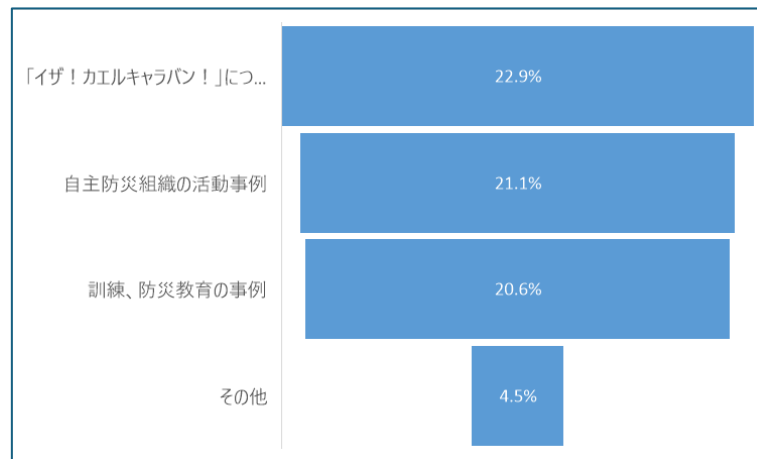
（※自由記載の意見については、個人等を特定できないよう一部加工しております。）



Q1. シンポジウム・基調講演で良かったと思う部分（複数回答可）



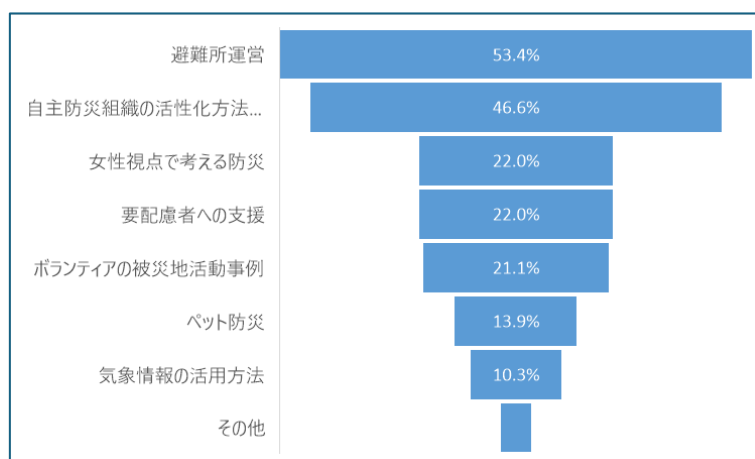
Q2. シンポジウム・パネルディスカッションで良かったと思う部分（複数回答可）



<その他意見>

- 自分が普段できることは？
- 自助共助
- 救急車の話
- 個人の取り組み
- 明海地区企業団地の防災訓練の話
- 防災の中での危険
- 防災士
- トイレの必要性
- 若年の防災参加
- 日頃の防災準備

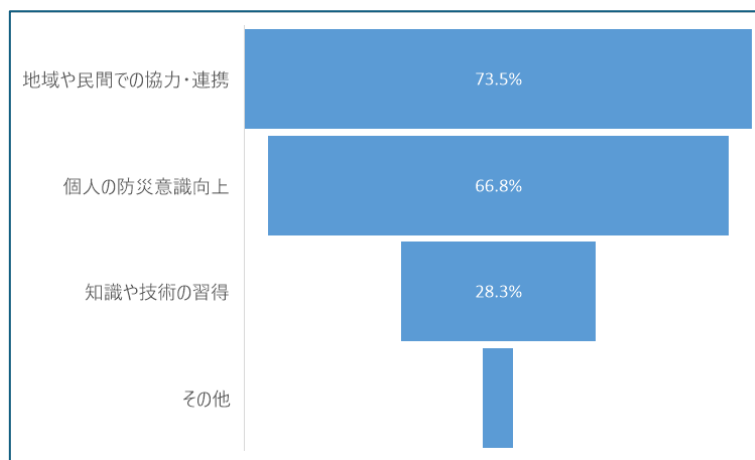
Q3. シンポジウムや講演等で聞いてみたい防災に関する内容（複数回答可）



<その他意見>

- 高齢者救急医療
- 石油コンビナートの特に化学物質漏洩対策
- 認知症を専門に事業をしているため、認知症の方の防災について
- コンビナートに焦点を当てた防災
- 災害後の廃棄
- 避難所の運営について
- 自助共助の現況、状況
- 防災対応を行うスタッフの宿直設備など

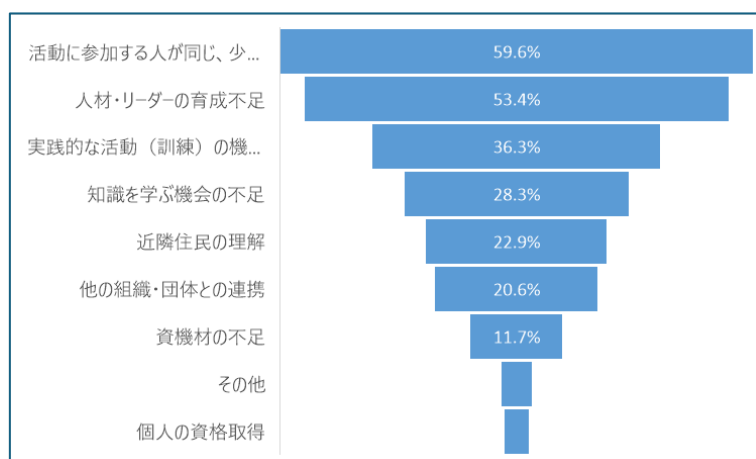
Q4. 将来に安全・安心なまちを引き継ぐため、自助・共助としてどんな取組が必要か。
(複数回答可)



<その他意見>

- 日頃のつながり
- 地域の世代交代（自治会員の高齢化）
- できていることではなく、できていないことの情報提示
- 自主防よりも小さい単位の共助（ご近所さん）
- 小さなころからの防災教育
- フレイル予防
- どこにどんな助けがいる人がいるのか、認知症の人がどこでサポートが必要か。
- 何からして良いのか。
- 近隣の方との普段からコミュニケーションをとる
- マニュアルの理解と訓練が必要

Q5. 自助・共助として防災活動において課題に感じることは。(複数回答可)



<その他意見>

- 強制的な防災活動
- 市の主体性
- 口うるさい地区の権力者
- やる気
- 分担、分業が必要だと思う
- 夜間避難
- 近隣で介助が必要な方がいるか不明である
- 逃げる援助
- 予算

Q6. その他、本日のシンポジウムの感想などがあれば記入してください。

- 原事務次官のいろいろな体験や話が聞けて良かった。
- 防災力の必要性をあらためて感じました。
- 自助共助の取り組みを家庭で行おうと思いました。
- 避難所を多く作る大切
- 防災訓練の繰り返しが実際の災害に活かされる。最悪の想定→マニュアル→訓練 この繰り返しを実践したいです。
- 産業防災の視点に立ったシンポを希望します。
- 防災意識を高め、それを周知するためにも防災士の講習を受けようと思った。
- 原事務次官の熱心な語り口が聞きごたえがありました。
- 非常に参考になりました、ありがとうございます。
- 貴重なお話ありがとうございました。
- ありがとうございました。
- 全国の市町村が消防団協力事業所制度をつくってほしい。備蓄が大事というが、ハザードマップ内に入っているところの備蓄は何の意味があるのか？
- 事務次官の力のこもった講演がとてもよかった。
- 防災への取り組みの大切さを再認識しました。
- 開催時間が悪い、短い。
- 内容が良かったが、時間が短くて、もっと聞きたいと思いました。
- 私は株式会社●●の代表をしており、認知症の方や家族の防災についても支援したいと考えています。万博でも教護室で活動した経験を活かしたいです。
- 参加してよかった。
- 自助共助、何年前から言われてますね。改めて、又考えさせられました。
- 良かった。
- 自助＝備蓄、ブレーカー、etc
- 身に付く防災訓練の実施が大切である。
- 原事務次官の貴重なお話、誠にありがとうございました。
- シンポを受けて、高石市として何をすべきかを市で十分考えてほしい。講師も市のリスクの把握から始めよとおっしゃってました。最悪事態、事前マニュアル、訓練
- 原事務次官の経験に基づく講演が分かり易く、非常に良かったと思います。今後も、実践に基づいた講演等していただければと思います。
- 勉強になりました。
- 普段はつい忘れがちになる防災の様々なことを改めて思い出し、自分でできる「自助」をしていかないといけないと思います。
- お話はよく分かりました！！ もっともっと勉強したいと思いました。

- 周知、知る機会をどこで得れるか知りたい。
- 各人にあった避難路 個人別 空家が問題
- もっと時間をかけてほしいと思いました。
- 改めて防災意識を高めて、自助共助で生きぬいていきたい。
- 内容が良かったのでライブ配信等で周知できればと思う。
- 原事務次官の防災に対する熱い思いが伝わった。自助の大切さ、共助が重要なことが分かりました。
- 総合防災訓練をぜひ見たい。
- 有意義なシンポジウムでした。防災、地域に対する思いを新たにしました。
- 松山の防災士1万人！ってすごいと思いました。私もイザ、カエルキャラバンに参加し、防災士の資格を取りました。幼稚園、小中学校でも楽しく防災を学べる機会があればいいと思いました。
- 医療について、どうしても十分でないと感じるので、これも協力して何ができるのか。
- 使わなくなった井戸を運営できないか。
- 参加者は年配者よりも若い人に多く来ていただけたらいざというとき助かるかと思いました。もちろん自助に努めますが。
- 良かった、参考になった。
- 市長の熱意を感じた。
- 詳しい説明をしてくださってありがとうございます。もう一度生活を見直してみたいです。
- 消防庁の仕事の内容が良く理解できました。
- 地域で考えていくことにします。
- 防災の取組みを分かりやすく力強く語っていただいた。パネルディスカッションでも、自助共助の事例が紹介されて参考になった。
- まず「自助」から見直すことを意識できました。
- 訓練をもっとしてほしい。
- お話が分かりやすかったです。
- 市制60周年にふさわしい
- 非常に参考になりました。感震ブレーカー、トイレの準備が必要だと思いました。
- こういう機会がなくて初めての参加ですごく勉強になりました。
- 自助共助の大切さ 改めて感じました
- 非常に有意義なシンポジウムでした。ありがとうございました。
- 次官の講演とても良かった。
- 時間が短かったので出来たら倍にしてもらえたら。

- 防災について団としてやっていることが分かった。しかし、国に不信もあるので理解を深めていきたい。
- 原次官のお話は簡潔で分かりやすかった。事例紹介参考になった。